

# めぐみイエス・キリスト教会

2024年4月28日(日) 第四主日礼拝

午前10時より

週報「通算第704号」



2024年標題聖句

マタイの福音書第6章33節

《まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

## ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌233「驚くばかりの」	p. 354
【交読文】	No.41 詩篇第127篇	p. 912
【賛美Ⅱ】	新聖歌467「世の終りのラッパ」	p. 752
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【前回説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル曲No.1「ビジョン」	
【聖書朗読】	ルカの福音書4章40節～44節	
【礼拝説教】	《日が沈むと》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌165「栄光イエスにあれ」	p. 235
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

### ※本日の聖書箇所(ルカの福音書4章40節～44節)

4:40 日が沈むと、様々な病で弱っている者をかかえている人たちがみな、病人たちをみもとに連れて来た。イエスは一人ひとりに手を置いて癒やされた。

4:41 また悪霊どもも、「あなたこそ神の子です」と叫びながら、多くの人から出て行った。イエスは悪霊どもを叱って、ものを言うのをお許しにならなかった。イエスがキリストであることを、彼らが知っていたからである。

4:42 朝になって、イエスは寂しい所に出て行かれた。群衆は

イエスを捜し回って、みもとまでやって来た。そして、イエスが自分たちから離れて行かないように、引き止めておこうとした。  
4:43 しかしイエスは、彼らにこう言われた。「ほかの町々にも、神の国の福音を宣べ伝えなければなりません。わたしは、そのために遣わされたのですから。」

4:44 そしてユダヤの諸会堂で、宣教を続けられた。

### ●ポイント1.「共観福音書における平行記事」から

#### ※マタイの福音書8章16節～17節「夕方になると」(新約p.14)

8:16 夕方になると、人々は悪霊につかれた人を、大勢みもとに連れて来た。イエスはことばをもって悪霊どもを追い出し、病気の人々をみな癒やされた。

8:17 これは、預言者イザヤを通して語られたことが成就するためであった。「彼は私たちのわずらいを担い、私たちの病を負った。」

### ●ポイント2.「主イエスの御心」とは？

#### ※マタイの福音書8章1節～3節「一人のライ病人」(新約p.13)

8:1 イエスが山から下りて来られると、大勢の群衆がイエスに従った。

8:2 すると見よ。ツアラアトに冒された人がみもとに来て、イエスに向かってひれ伏し、「主よ、お心一つで私をきよくすることがおできになります」と言った。

8:3 イエスは手を伸ばして彼にさわり、「わたしの心だ。きよくなれ」と言われた。すると、すぐに彼のツアラアトはきよめられた。

### ●ポイント3.「自由」と「解放」とは？

#### ※エペソ書2章1節～6節「パウロによる奥義」(新約p.385下段)

## ◎先週の礼拝メッセージ【ペテロの姑(しゅうとめ)】

《この日は安息日でした。カペナウムの会堂を出て、主イエス様は、ヤコブとヨハネと共に、シモンとアンデレの家に入りました。

すると、シモンの姑が熱を出して横になっていました。人々はさっそく、彼女のことを主イエス様に知らせ、いやして下さるようお願いしたのです。この「人々」とは、ペテロの妻と子どもたち、そして近所から看病に来ていた、女性たちではないでしょうか。

さて、シモンと弟アンデレの故郷は、ピリポと同じでベツサイダであることを、ヨハネは明らかにしています。もしかしたら、彼らの両親は健在で、父親は漁師として、まだ活躍していたのかも知れません。

そしてペテロが結婚した時に、カペナウムに家を建てたのではないのでしょうか。そう考えますと、ペテロが妻の母親を引き取った理由が分かります。また彼女は、やもめであったと思われれます。やもめは、当時のユダヤ社会において、もっとも弱い立場にあった女性でした。

さて、主イエス様は、シモンの姑の側に近寄り、手を取って起こされます。すると、一瞬にして熱がひき、彼女は起き上がります。このように、主はいつも最も弱い者と共にいて下さるのです。彼女は、孫たちの面倒を見ていましたが、やはり娘婿の世話になることには、肩身のせまい思いをしていたに違いありません。しかし、主イエス様は、ペテロの姑に使命を与えられました。それは彼女にとって、まさしく生きがいとなりました。すなわち、救い主イエス様の世話をすることです。

私は、主イエスが公生涯を終えるまで、ペテロの姑は、主と弟子たちが家に戻って来られるたびに、いつも持てなしたと信じています。

主は、もっとも弱い立場の者を、また、取るに足らない者を用いられます。それは、誰もが高慢にならない為であり、神様に栄光を帰する為なのです。主は、いつも「へりくだった者」と共におられます。》

## お知らせ

※次回は5月5日(日)は午前10時から、通常通りに行ないます。